

令和3年度 「生活支援体制整備事業」
生活支援コーディネーター連絡会議
県央ブロック第2回目


日時：令和3年11月17日（水）

10時～12時



本日の進め方

時間	内容
10:00 ~ 10:30	各市町村の生活支援体制整備事業の前回以降の動きの報告
10:30 ~ 11:30	テーマに分かれての話し合い ①「地域住民への意識啓発に向けた課題」 ②「コロナ禍後再開で感じている課題」 ③「社会資源の発掘と協議体運営」
11:30 ~ 12:00	各テーマからの発表・全体での意見交換 他



連絡会第1回目を終えての振り返り



振り返りのポイント

- ▶ コロナ禍とその後
- ▶ 主な課題
- ▶ 住民と協議体の接点づくりに向けた取り組み
- ▶ 協議体の活性化に向けた取り組み
- ▶ 事業基盤の強化

コロナ禍とその後

- ▶ コロナ禍においても住民とのつながりを絶やさない取り組み
(見守り活動、歩く会、青空サロン、かわら版、冊子の発行等実施)
- ▶ コロナ禍で協議体メンバーの絆、モチベーションを絶やさない試み
(「井戸端かわら版」「SC同士の戦略会議」、コロナ禍後においても継続)
- ▶ コロナ禍後、ようやく協議体を再スタートできたばかりの段階
(どうこれから協議体を盛り上げていくかという課題)



主な課題

- ▶ 住民に理解してもらおううえで感じている「壁」の高さ
- ▶ 担い手不足、新規メンバーが出てこない、マンネリ化
- ▶ やらされ感、達成感がない
- ▶ いつまでも事務局主導
- ▶ 兼任による人手不足

住民と協議体の接点づくりに向けた取り組み

- ▶ 広報誌で募集するより口コミによる新規メンバーが多い
- ▶ 居場所づくりをテーマにした講習会を実施して協議体のメンバーに勧誘
- ▶ ワールドカフェスタイルの「みつばちカフェ」を入り口に地域ニーズや資源発掘
- ▶ サロンを3層協議体として位置づけ、出向いて課題等の掘り起こし
- ▶ リーフレットや情報誌づくり（誰が誰に何をどのように伝えるのか？）
- ▶ 立ち上げ段階は団体の代表に集ってもらい、その後課題ごとにメンバーを選んでいく方法
- ▶ 協議体の開催時間


協議体の活性化に向けた取り組み

- 協議体メンバーで子ども、居場所づくりをテーマにした他団体主催イベントに参加（刺激を受け今後の協議体のテーマに）
- 協議体開催前に負担にならない程度のアンケートを実施して意見を吸い上げる
- コーディネーター、協議体メンバー同士等の横のつながりづくり（「井戸端かわら版」「SC同士の戦略会議」）
- 社会資源の活用（グランドゴルフ、移動スーパー、カフェ、ビニールハウス）



事業基盤の強化

- 行政の縦割りを越えたプロジェクトづくり
(ワーキンググループ)
- 既存の組織をどうアレンジして機能させていくか？
(既存の組織を総働、統廃合も含む)
- まちづくり協議会の任期切れをタイミングに上長に参加してもらい生活支援体制整備に関する説明会を実施
- 地域ケア会議と協議体の関係
- 地域福祉計画と地域福祉活動計画策定を通じた行政と社協の良好な関係づくり



テーマに分かれての話し合 い

ーブレイクアウトルームへ

① 「地域住民への意識啓発に向けた課題」

生活支援体制整備事業を地域住民等に理解してもらう難しさは何か？理解してもらうためにはどのような方法が考えられるのか？

② 「コロナ禍後再開で感じている課題」

コロナ禍後、協議体が再開するにあたってどのような課題を感じているのか？その課題についての悩みを共有し、改善に向けた方策を考える。

③ 「社会資源の発掘と協議体運営」

既存のサロンや移動スーパーなどの社会資源をどのように協議体運営に活用していくかについて考えていく。